

## 編集後記

純粹未来ということで真の現在の世界を曾我先生は教えられる。それは、過去現在未来という時の継起としての未来を意味するものではない。寧ろ現在の現在として真の現在を意味するであらう。現在というとき、現在のみが現在に非ず、過去も亦現在であり、未来も亦現在である。過去は単なる過去ではなく、未来も単なる未来ではない。個人的世界に於ては、現在は単なる現在である。然し歴史的世界に於ては、現在は歴史的現在である。歴史の現在是一年万年現在である。歴史の世界に眼を開けば、五劫思惟も兆載永劫も現在である。法蔵菩薩も十劫正覺も現在である。「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずればひとへに親鸞一人がためなりけり」と、これ南無阿弥陀仏の歴史の世界に眼を開かれた言であり、現在に於ける自己実存の成就を意味する言である。普通には現在が利那であるという。然し現在には現在の内容がある。歴史的内容を有つ。歴史的現在の体、それは南無阿弥陀仏である。それは、それに於て衆生が生まれ、それに於て死んで行

くことの出来る歴史的現在の体である。然も歴史的現在が宿業をもって開顯されるのであって、宿業は歴史を開く契機である。されば親鸞の教えを学ぶということは、無始以来の宿業を凝視しつつ自己実存の歴史的成就を明らかにするということではないであらうか。金子先生の言葉を借りれば、それは、「その内容に於て阿弥陀とこの身の対話であるとしても、その形式に於ては自身との対話である。」かくして本号は、何時もの曾我・金子・安田の各先生の思索論稿に加えて、十篇の玉稿を掲載することが出来ました。特に大河内了悟先生には、御多忙のところ大変味得深い長篇の玉稿を頂き、厚くお礼申し上げます。また卒業生の中から、伊香岡・藤井両氏に寄稿して頂きました。学会内からは、栗原先生に聖徳太子の千三百五十年忌を憶念して太子の論稿を、幡谷・寺川・本多の各先生には最近の思索の中から啓蒙的な発表を頂きました。こうして最近になく質量共に豊富な誌が出来ましたが、然しその反面、年々高騰する物価に伴い、本号を以て誌代を値上げせざるを得なくなりました。読者諸賢の御理解を頂くと共に、今後共一層の御愛顧を念願致します。

(小野)

昭和46年6月10日 印刷  
昭和46年6月20日 発行

親鸞教学 第18号 辛 300

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会  
親鸞教学編集部

発行人 藤原幸章

大谷大学真宗学研究室 振替 京都 8225番

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店  
振替 京都 2948番

京都市下京区七条御所ノ内中町50

印刷 中村印刷株式会社  
電話 (313) - 0468番